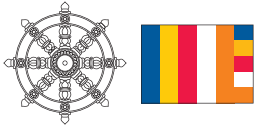


ZENBUTSU

# 全仏



No.  
558

仏暦2553年 4月  
[2010年]



奈良 文殊院 撮影 橋本 明禅師 (第28期副会長)

目次	就任のご挨拶 第29期会長 河野 太通	2
	第29期副会長紹介	2
	第28期各審議会答申・各委員会の報告を豊原大成理事長に提出	3
	第3回広報委員会「広報文化セミナー」開催	3
	加盟団体をゆく 第33回 仏教伝道協会	4
	ダボス会議に於ける松長有慶会長提言(全文)	6
	「WFB本部表敬訪問とネパール・ルンビニー園参拝ツアー」報告(2)	9
	エジプト 大ムフティーが表敬訪問	12
	本会救援基金について	12

# 第二十九期会長就任にあたって



臨濟宗妙心寺派第三十三代管長

河野 大通

この度、全日本仏教会第二十九期会長の要職を負うことになりました。非才不徳な私に何が出来るのか、引き締まる思いを致しています。

日本に於ける仏教と社会のかかわりは、古来より緊密なものであり、しかも国民の大半がその信徒であります。にもかかわらず、その現代日本は年間三万人を超える自殺者を出しているなど、幾多の憂慮すべき問題を抱えています。当然ながら仏教者及び仏教教団は、今さらながら仏教の社会的対応と、その貢献の方途を考えなければならぬ時でありま

す。特に、戦争可能な国への萌芽がみられることは警戒しなければなりません。

日本の仏教が、現代社会に何を果すべきか。仏教の縁起観による寛容の精神と不殺生の理念を、世界に発信すると共に、まず、われわれ僧侶自身が己に対して真摯に、仏法的日常を行じ得ているかを問わなければならないのであります。

一人一人の仏教者が、仏法への確固たる求道心を堅持できるように、仏法を真実体現した仏教者の養成と、その活動のために、各教団のご協力ご支援をお願いする次第であります。

# 第二十九期 副会長略歴紹介

大矢 實圓副会長



経歴  
高野山大学密教学科卒業  
河内長野市 松林寺住職  
真言律宗総本山西大寺長老・管長  
その他経歴・著書等  
社会福祉法人宝山寺福祉事業団総裁  
奈良県表千家同門会副支部長  
戒律文化研究所会長

菅原 栄光副会長



経歴  
大正大学卒業  
日光山 第八十四世輪王寺門跡  
栃木県仏教会会長  
天台宗宗機顧問  
その他経歴・著書等  
(再)栃木県保護観察協会副理事長  
学校法人駒込学園顧問  
(財)徳川記念財団評議員

疋田 哲寿副会長



経歴  
駒沢大学仏教学部禅学科卒業  
曹洞宗 精明寺住職  
鳥取県仏教連合会会長  
人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会実行委員  
その他経歴・著書等  
更正保護法人鳥取県更生保護給産会副理事長

## 第二十八期各審議会答申・各委員会の報告を 豊原大成理事長に提出

三月十日午後四時より、本願寺築地別院会議室に於いて、総務財政審議会・社会人権審議会・国際交流審議会の三審議会の答申が豊原大成理事長に提出された。同時に宗教教育推進委員会・広報委員会の報告もなされた。

答申書提出後、豊原理事長より各委員長・副委員長に質問がなされ、各審議会中における議論や様子等が伝えられ、懇談がなされた。当日は、近藤真道総務財政審議会副委員長、田澤元泰社会人権審議会委員長及び深真樹副委員長、戸松義晴国際交流審議会副委員長、杉谷義純宗教教育推進委員会委員長及び星野英紀副委員長が出席した。

また、本会事務総局より深澤信善事務総長、奈良慈徹総務部長、江口智流財務部長、飯島尚之社会人権部長、中村澄枝広報文化部長、壽山良光国際部長、入西智彦総務

部次長が出席した。

宗教教育推進委員会に関しては、公教育の場で宗教に対する誤解と偏見を除くための具体策の検討や、宗教教育の重要性をセミナーやシンポジウムを通じて、まずは加盟団体に広める方策の検討が必要なことなどを報告した。

広報委員会は、ホームページ等様々な手段を通じて引き続き広報課題に取り組む事、三月四日に広報文化セミナーを開催した事などを報告した。(詳細下段参照)



豊原大成理事長に答申を提出する  
戸松義晴国際交流審議会副委員長

## 第三回広報委員会「広報文化セミナー」開催

三月四日午後一時より、大本山妙心寺「花園会館」に於いて第三回広報委員会「広報文化セミナー」が開催された。

今回のセミナーは、元KBS京都の宗教担当記者を約四十年近く努めてきた板原和之氏を講師に招き、講演及び質疑応答を中心として行われた。

講演テーマは「宗教界の常識は世俗の非常識か? より理解されるために……」。

講演に於いて、板原氏はまず近年の新聞等での宗教の取り扱いについて、「新聞記事の掲載ジャンルとして宗教が外されているので



板原和之氏の講話を熱心に聞き入る  
広報委員の方々

はないか、と思うほど情報が載らなくなった」と感想を述べ、その原因の一つとして宗教界を十数年に渡って取材しているような専門家が少なくなっていること、各宗派が他宗の事を知らない状況が多く、過剰に宗派を意識しなくてはならない点が取材を困難にしていることが問題として述べられた。

対策として、「寺院で当たり前の事は一般の人にとっては目新しい事も多いので、掘り起こして教化に使う」事や、「メディアに取り上げてもらうには、記者が取り上げやすくなる仕掛けを身につける必要がある」事が述べられ、具体的事例に沿った解説が行われた。講演後、質疑応答が行われ、各委員より「世俗的なものと広報との切り分けをどう行ったらよいか」「ホームページ等、紙に変わるメディアをどう考えるべきか」等々の質問が出され、「ネットはますます発展していくが、記事に『軽重』が無いのがネットの記事の特徴であり、そこで棲み分けが図られるのでは」との解答が述べられた。

# 加盟団体をゆく

## 《第三十三回》財団法人 仏教伝道協会

今回は、財団法人 仏教伝道協会をお訪ねし、沼田智秀会長にお話を伺いました。

―貴団体の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

仏教伝道協会は、株式会社ミツトヨ創業者の沼田恵範師の発願のもと、有缘の方々のご協力により昭和四十年に財団法人として認可を受けました。

特定の宗派の教義を説くのでな



(左より) 古澤勝浩事務局長、沼田智秀会長、新野和暢広報企画課主任

く、仏教の説く東洋の叡智を一人でも多くの世界の人々に伝えるという目的に向かってあらゆる活動や事業を推進し、人類の相互理解と世界平和の確立を願う団体であります。

設立以来、仏教普及運動として『仏教聖典』の現代語訳および外国語訳とその普及、「大蔵経の英訳とその刊行」「世界の主要大学に仏教講座の開設」という三つの事業を柱として、各種仏教伝道活動を展開致しております。

『仏教聖典』は世界四十六ヶ国語に翻訳・刊行し、全世界六十三ヶ国の主要ホテルに常備され、普及総数は七百八十万冊を超えました。今後も改訂版の刊行や新刊を予定しています。

さらに点字による『点字聖典』や、日本手話に翻訳した『手話聖典』、仏教聖典を朗読した『仏教聖典C



各国語の『仏教聖典』がホテル・病院等に常備されている

D』を作製しています。

大蔵経の英訳事業は、『大正新脩大蔵経』全百巻を英訳しようと、まず第一期分として百三十九の仏教典籍を選び出し英訳刊行を進めています。これまでに『浄土三部経』『歎異抄』『正法眼蔵』『仏所行讚』など四十一巻を発行し、本年は『月灯三昧経』『弘明集』を刊行する予定です。

また、北米・欧州の主要十五大で「沼田仏教講座」を開催するとともに、日本での仏教研究を希望する留学生への奨学金制度も設けております。近年では英文の仏教研究資料のデータベースを構築

する「BDK無限プロジェクト」の支援に着手しました。

他にも、今回で四十四回を迎えた仏教伝道文化賞の贈呈や実践布教研究会の開催、仏教音楽の現代化とその普及を行う仏教音楽祭を随時開催しております。

第十四回「釈尊を讃えて」の仏教音楽祭第一位受賞作品「君は一人じゃない」と、お釈迦さまの誕生日をお祝いする「ハッピーバースデーお釈迦さま」をDVDとCDセットで発売いたしました。花まつりのテーマソングとして活用頂ければ、と思います。(全仏誌三月号 五五七号掲載)

これらの活動が日本人のこころに仏教的基盤を確立し、仏教伝道の一助になればと考えております。



CD「君は一人じゃない」に発表の「ハッピーバースデーお釈迦さま」

―今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

近年、核家族化が進んだ事や直葬が増えた事等々、仏教離れが起きているのでは、と報じられていますが、地方の方々はお寺に相談に来る機会がまだ残っているように感じますし、社会的な注目度・期待度も高いように感じます。

現在日本にはこれだけ多くの伝統仏教団体が存在し、歴史的にも伝統が根付いているのでその力を生かしていくべきだと思います。自死者への対策等の取り組みを具体的な活動につなげていく等々、社会的な問題に対しての取り組みを今以上に進めていく必要がある、と思います。

また、特に海外での活動は、各宗派単位では行っている宗派もございませぬが、総じて仏教界の影響力がまだまだ弱いように感じられます。翻訳に關しても和英だけではなく各国語に対応する事や、海外布教師や拠点に対して経済的バックアップを行うといった取り組みを今以上に各宗派の力を結集し

て行っていくべきではないか、と感じています。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

昨今の悲惨な事件やモラルの低下の表面だけを叩くのではなく、原因の根本に対して対策する必要があるのでないか、と思います。

現在の教育制度は、自国の歴史をあまり熱心に教えず、心の教育や宗教教育も教育の内容から排除してしまいました。母国の学習をおろそかにして、外国の歴史がどうして学べるのでしょうか。目先の事象の対応にとらわれ、教育が右往左往しているように感じます。

学校教育のみならず、家庭内における教育も現在は世代的に戦後教育を受けた世代が行っていますので、同様の教育が行われていると考えられます。これを良い方向に変換していくのは並大抵の努力では難しいでしょう。

日本は第二次世界大戦に負けたのでやむを得ない影響だ、とおつ

しやる方もいらつしゃいますが、ドイツも同じく敗戦国ですが教育制度は変えませんでした。

今こそ仏教界が大きく教育に關してアピールし、人間を超えるものに対する畏敬の念や、命の大切さといった知識よりも大切なものを少しづつでも教えていくように働きかけなくてはならないのではないのでしょうか。

―(財)全日本仏教会へのご要望やご意見がありましたらお聞かせ下さい。

時代は今、まさに仏教の力を必要としているように感じます。全日本仏教会と、加盟している各宗派・各団体が今以上に協力を進め、仏教が世直しの原動力となるように活動を進めていって頂けたら、と思います。

また、宗派を超えた具体的な伝道への取り組みがあると実際に現場に立つ僧侶の励みになるのではないか、と思います。

(談)

仏教伝道協会ホームページ

<http://www.bdk.or.jp>

## 仏教伝道協会沼田智秀会長が ハワイ人間国宝として表彰

去る二月十三日(現地時間)、シエラトン・ワイキキ・ホテルにて、ハワイ本派本願寺(トーマス・岡野総長)より、二〇一〇年度のハワイ人間国宝として仏教伝道協会の沼田智秀会長が表彰された。

表彰式には、五百余人が出席し、ハワイ州のデューク・アイオナ副知事と、ホノルル市のムワイ・ハネマン市長も臨席した。仏教伝道協会の発願者である沼田恵範師も仏教を中心とした日本と西洋の文化交流への貢献が評価され、一九八九年に同賞を受賞している。



## ダボス会議に於ける松長有慶会長提言全文

去る一月二十六日より三十一日迄、ダボス（スイス東部）で行われた世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）において松長有慶会長の提言がメディアを通じて公開されました。以下にその全文を掲載させていただきます。

### 日本仏教からの提言

財団法人 全日本仏教会  
会長 松長有慶

二十一世紀は混迷の時代である。前世紀の科学技術文明の驚異的な発展によって、人々は未曾有の物質的な繁栄を享受しながらも、精神的な痛みを抱えながら生きている。

われわれの周辺を見渡してみても、自己主張が突出し、他人の痛みには鈍感で、地域社会の連帯は希薄化し、凶悪犯罪が日常化する異常な社会が現実化しようとしている。世界全体を見れば、先進諸

国の経済的な発展の蔭で、開発途上国の人々との間に貧富の差が急激に増大し、地球環境が劣悪化し、資源が枯渇し、民族紛争、宗教間の対立抗争が常態化する憂うべき事態が現在進行しつつある。

社会的にも、個人の内面においても、八方ふさがりの閉鎖状態にあつて、われわれは今まで自己が持ち続けてきた固定した人生観を冷静に反省して、改めるべき点があれば、率直に生き方を転換させて、事態の根本的な改善を図る必要がある。

そのために、近代人が比較的等閑視してきた東洋の文化、とくに仏教の文化の中に、現代社会の病根に有効に作用する良薬が少なからず残されていることに、私は注目したい。

大乘仏教を奉ずる日本の仏教徒が、現代社会の危機に対して有効と思われる提言を要約すれば、一、生きとし生ける者の相互の関連性

を認める全体的思考、二、多元的な価値観、三、生かしていただきたい意識から社会奉仕活動へ、これら三点に集約されるであろう。

### 一、生きとし生ける者の相互の関連性を認める全体的 (wholistic) 思考

日本仏教には、人間中心、とくに自己中心的な視点を転換して、無限の宇宙的な視野の下に、人間だけではなく、動物、植物などあらゆる生物の相互のつながりを示す「一切衆生」という思想があり、日本の仏教徒の人生観の根底に横たわっている。

大乘仏教では、一切衆生はすべて仏になる可能性を持っていると説く。人間だけではなく、獣も鳥も魚も、虫けらに至るまで、あらゆるいのちあるものは、仏になりうるという思想は、人間と神との間に明確な一線を引く一神教の世界観とは異なる。

日本仏教では、山や川、草や樹木もまた本質的には、仏であると

説く。それは、生きものだけではなく、山や川、風や石ころなどの無生物まで、神として崇敬してきた民俗信仰を仏教が摂取し、仏教の教理によって裏づけを与えたものである。

近代思想は自我を中心として、自と他を明確に区別するところから出発した。それは物事を対象化して捉え、近代の科学技術文明を発達させる基盤を作り上げた。だが一面において自と他、物と心、人間と自然などの間にあつた韌帯を切断し、それぞれを独立の存在とみなす考えが常識化することとなった。

しかし最近の人文科学や自然科学の研究の成果によると、他者から完全に切り離された自己は存在しないし、物質と精神をまったく別個の存在とみなすことは困難となった。また人間だけが動植物や自然界を支配し、それらを隷属化する権利を持つものではなく、それらの間には相互に関連し、補完しあう共存の関係を想定せざるを得なくなった。



提言は会議議題集に英文掲載され、広く配布された

日本仏教の考えからすれば、自と他、個と全体、物と心というように、一般に対立的に考えられている存在は、もとより一体である。ものごとを分析的により分け、細分化することによって、ものの本質は見えてこない。むしろ対立的な思考を捨てて、全体的に把握することによって、ものの真実の姿が現われてくると見る。

仏教は自我を中心として対立的に世界を見る近代思想から、宇宙的な視座の下に、全体的、相互関連的に世界を見る立場へと、視点の百八十度の転換を提案している。分析的な思考法とか、物心二元

論的な思考は近代の科学技術文明の進歩を支えてきたが、さまざまなひずみを現代社会に露呈することなった。すべての存在に、いのちを認め、相互の関連性を重視する日本仏教の総合的で、生命論的な観点は、人間疎外とか環境破壊といった現代社会が解決を迫られている問題に対して、有効な示唆を与えるであろう。

## 二・多元的な価値観

近代の科学技術文明の驚異的な進歩の基盤には、一元的な価値観があつたことは疑い得ない。しかしながら人間社会をすべて一元的な価値観によって統合する思想の矛盾点も、二十世紀後半になって明確になってきた。いわゆる先進文明だけが唯一絶対の価値を持つものではなく、地球上のあらゆる地域に存在する未開の文化も、それぞれ独自の価値を持つことになんは気づいた。

このような点に於いて、インドや中国、あるいは日本などの東洋

の文化は多元的な価値観に基づいて展開してきたといえる。日本仏教においても、六世紀の始め、その伝来当初から、仏と日本人がそれまで信仰してきた民族神との融合が図られてきた。日本の民衆の間では、外国から渡来した仏と、民族信仰の神々が排除しあうことなく、互いに影響を与えあつて共存してきた歴史を持っている。現在でも日本人の間では、同じ屋根の下で仏壇と神棚がともに祀られ、祈りが捧げられている家庭が少なくない。

異なった文化を否定することなく、その存在価値を認め、自己の組織の中に取り込み共存する原理は、日本仏教の中でも、仏教の曼荼羅の中に具体的に表現されている。

曼荼羅とは仏とか、それに至る修行過程にある菩薩、さらにはもとインドで、バラモン教で祭られる神や、ヒンズー教で信仰されていた神を取り入れた明王や天部の神々を集約して画いた絵図である。

曼荼羅には異教徒の神々が少なからず取り入れられているが、それらは無秩序に寄せ集められたものではない。その中では、大乘仏教の中では有名な菩薩たち、あるいは民族信仰の神々が、民衆が信じている神々の性格別に、いくつかのグループに分け、配置されている。知的な神、情け深い神、勇気のある神、エネルギーに満ちた実行力に富む神等々、それぞれのグループに分けられて配置されている。たとえ異教徒たちの崇拜する神であっても、それぞれの長所を認め、本来の個性を持ったままに、仏教の仏に変えてしまう。

しかしながら個性を持つということは、一〇〇%完全ではないということである。個性は長所と短所を二つながら持っている。仏教では短所のみを取り上げ、その欠点を非難することなく、それと表裏の関係にある長所だけに眼を向け、その長所を持つために、仏や菩薩として仏教の pantheon に偏入してしまう包容性を持っている。そこには排除とか否定の論理は

認められない。それは一元的な価値観によって、善と悪、あるいはカオスとコスモスとを画然と区別して、一方だけを尊重する思想ではない。無数の価値基準を用意して、いずれかに当てはまるものは、すべて取り入れていこうとする東洋文化の基本的な姿勢を、曼荼羅の思想の中に見出すことが出来る。

以上のような仏教の世界観や曼荼羅の思想は、対立抗争が渦巻き、精神的な混沌の度を益々深めていく現代社会において、異文化との対話、生活文化の新しい指導原理を求める場合、かけがえのない重要性を持つに違いない。

### 三、生かせていただいている意識から社会奉仕活動へ

日本仏教の歴史の中で、仏教者が社会に積極的に関与している事例は数多くある。具体例を列挙する紙幅を持たないが、日本における貧民救済などの社会福祉活動は、六世紀に仏教が伝来した初期から始まる。それは大乘仏教の利

他の精神の具体化とみられる。病院、施薬院の創設、橋を架け、池を掘り、道路を開くなどの公共事業、無料宿泊所の設置、孤児救済活動を始め、十三世紀には、仏教の戒律復興運動の従事した僧侶たちによって、各種の貧民救済の福祉事業が積極的に行われ目覚ましい成果を挙げた。その精神は日本仏教の各教団に現在まで受け継がれて、大乘仏教の利他の思想を実現すべく、多彩な福祉活動が各方面で展開されている。

これら仏教の僧侶や為政者が仏教の利他の活動の一環として行った社会活動とは別の次元に於いて、民衆の中で他者に対する無償の奉仕活動が継続して行われてきたことにも注目したい。その活動の根底には、民衆の持つ独特の罪の意識があった。

日本人が古くから持つ罪の意識は、キリスト教徒の原罪とは基本的に異なる。日本人は日常生活の中で、生きていることが常に他に對し、また社会に對して、迷惑をかけているという意識をもち、そ

れが罪の意識となつて心の中に根深く残った。その罪をそのまま清算せずに生きていると、さまざまな災いが、己が身に降りかかり、不幸が訪れると信じられた。その贖罪を可能とするには、神仏の前で懺悔を行い、また本人が社会に對して、善行をおこなうことが必須の条件であった。

このように社会のために労働する苦行が、己が犯した罪を払うという日本古代の贖罪観を背景とする社会福祉活動は、作善(さぜん)と呼ばれた。十三世紀頃に、念仏信仰を唱導しつつ、寺社の建立資金の調達のために全国を遊行した聖たちは、贖罪の意識をもって、各地に橋を架け、道を通じ、井戸を掘るなどの慈善事業にも従事している。

奈良の東大寺の再建に寄与した重源(ちようげん)には、「南無阿弥陀仏作善集」という著作がある。それによれば、彼は「南無阿弥陀仏」の念仏を唱え、寺塔の建立、架橋、道路の改修、湯屋の建設などの「作善」を民衆に勧めつ

つ、人々を次々に仏教の信仰に引き入れていったことが知られる。われわれが現代社会に生きていること自体が、限りある地球の資源を消費し、大気を汚染し、環境の破壊に多少に関わらず関与していることは事実である。罪を犯しながら地球の上で生かされてもっているといつてよい。その意識をもって、社会のために自分が何をなすうるか、生きる代償として地球環境の保存にいかに関与するかを真剣に考える事態が今到来しているといつてよい。

生きとし生けるもの相互のいのちのつながりの意識、弱者のなかかけがえのない価値を認める多元的な価値観、生かせていただいている意識をもって行う他者への奉仕活動、これらの問題を含め、現代人が仏教の思想に学ぶべき点が少なくないと私は考えている。

## 無料法律相談室

長谷川正浩弁護士、  
第二、第四木曜日の午後開催しております。  
本会事務局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。

## 「WFB本部表敬訪問とネパール・ルンビニー園参拝ツアー」報告(二)

二月五日より十一日まで、深澤信善事務総長を団長として「WFB（世界仏教徒連盟）本部表敬訪問とネパール・ルンビニー園参拝ツアー」が開催され、事務局を含む二十五名が参加した。（前号より続く）

八日（四日目）、一行はカトマンズに戻り、五重の塔で出来たニヤタポラ寺院や煉瓦で舗装された通路など歴史的な建造物が残るバクタプールを観光し、九日はマツラ王朝時代の首都として栄えたパダンを観光後、空港へ移動し飛行機に乗り、タイ・バンコクへ移動となった。

十日はバンコク市内にあるWFB本部を表敬訪問した。一行はパン・ワナメツティーWFB会長にお出迎えいただき、歓迎セレモニーが本部二階にあるホールに於いて開催された。

セレモニーはパン会長の歓迎の挨拶で始まり、続いてタイ国王の健康回復を念じ、ツアー参加者一同によって法要が執り行われた。

法要後、本会救援基金より五百万円、浄土宗平和協会よりインドネシア・スマトラ沖大地震復興支援に本会救援基金を通して百万円、



WFB（世界仏教徒連盟）本部表敬訪問  
2010年2月10日

ツアー参加者より、タイ・プーケットの津波被災者のために建立予定である瞑想センターへの基金として寄せられた浄財の寄託式が行われた。

午後からはWFBのご厚意により、白バイ先導のバスに乗り、エメラルド寺院と王宮を訪問した。

現地では、管理スタッフのガイドが付き、王宮では通常立ち入ることの出来ない場所への見学など大変貴重な体験をさせていただくことが出来た。

夕食後、一行は空港へ移動し、夜行便にてバンコクを後にし、翌朝に成田空港に到着し解散となった。

## 「WFB本部表敬訪問とネパール・ルンビニー園参拝ツアー」に参加して

この度は「WFB本部表敬訪問とネパール・ルンビニー園参拝ツアー」に夫婦ともども参加できましたことを、WFB並びに全日仏に関わる全ての方々に対しまして、ここで改めて心より感謝の意を申し上げます。

全日本仏教会主催の旅行には初参加であり、これまで直接の関わりが無かった私ども夫婦の視点から今回の旅行を見つめて欲しい：とのご依頼があり、一筆を啓上させて頂きます。

タイのバンコクにおきましては、かつて私どもの新婚旅行にて訪問したことがあるのですが、今回の行程の主な滞在地はタイではなく彼の「ネパール」国内。しかも、釈尊生誕の地ルンビニーにて参拝の機会を得るとなれば、仏教に帰依する立場の人間としては必ず一度は訪れなければならない聖地であります。私事ながら、大正大学仏教学部において仏教を学んだ者としてルンビニーの地に足を踏み入れた事は、仏教者として責務をひとつ果たせた思いでもありました。参拝ツアー参加に関して最

初にお誘いを受けた時、その責務を果たしたい思いが沸き上がるのと同時に、日頃寺院として当山の興隆の一角を担う妻の関心の高さも大いに参加への意欲を掻き立てられました。久しぶりとなる夫婦二人での旅行は、毎日が驚きと発見の日々でありました。一日目のWFB主催晩餐会では、初参加であるが故の周囲とのぎこちなさもありましたが、時がそれを解消し、やがては皆様と旧知の仲であるかのように杯を交わせる間柄となりました。再会を誓いながら帰りの成田空港で別れを告げたあと、しばらくしてまた個人的にお会いできる御縁にも恵まれました。同じ仏教者であっても宗旨・環境が違えば、どうしても巡り会える機会が限られてしまうのが現状です。今回の旅行ではその垣根を越えて、皆様が一人の仏教者としてお互いに親交を深められる、貴重かつ有意義な時間であったと言えます。

皆様、本当にありがとうございました。

（原文）

浄土宗 寿永寺 澤 孔文

「来て！見て！発見！暮らしとお仏壇フェア二〇一〇」開催

二月二十三・二十四日「来て！

見て！発見！暮らしとお仏壇フェ

ア二〇一〇」が、日本橋プラザ三

階展示ホールにて開催された。主

催の全日本宗教用具協同組合（理

事長 小堀賢一）では、全国加盟

の仏壇仏具業界が一丸となり、こ

の催しに向けて創作した、仏壇約

百点（伝統仏壇・都市型仏壇・創

作仏壇）の他、約二百点の仏像・

仏具・数珠・線香・ローソクなど、

幅広い出展となった。

本会からは、二十四日「第二回

こんなお仏壇あったらいいなコン

テスト」の審査員として、奈良慈

徹総務部長が出席した。

一般入場者の投票による金賞・

銀賞・特別賞。審査員の投票によ

る各賞に、それぞれ表彰状が贈ら

れた。

本会は「全日本仏教会会長賞」

を設定し、表彰状と松長有慶会長

（高野山真言宗管長）揮毫の色紙

「忘己道法」を副賞として贈った。



全日本仏教会会長賞受賞作品  
『散蓮蒔絵入御厨子』

本会会長賞には、

◎仏壇部門

『散蓮蒔絵入御厨子』

（京仏壇 加茂定）

◎仏具部門

『かゆらぎ 名刺香 桐箱6入』

（株）日本香堂

俳句川柳コンテスト（応募数八

千四百七十七作）より

◎川柳部門

『私より若い遺影に少し妬け』

（岩手県 長澤知子）

が選ばれ、表彰状と副賞の色紙を、

審査員として出席の奈良総務部長

がプレゼンターとなり、それぞれ

に手渡した。

インパクト・インベストメント ～投資に社会的視点を～ 大和証券の取組み

近年、「金融に社会的視点を組み込む」という姿勢が金融機関に求められています。大和証券グループでは、企業理念の一つに『社会への貢献』を掲げ、主要業務である証券ビジネスを通じてより良い社会の構築に尽くすべく努めております。

◆インパクト・インベストメント

欧米では今、“インパクト・インベストメント（Impact Investment）”という新たなトレンドが動き出しています。インパクト・インベストメントとは、経済的な利益を生み出すと同時に、貧困や環境などの社会的課題に対して、より直接的で即効性のある解決を目指す投資のことです。経済的利益と社会的利益、2つの利益を享受できる新しい投資のかたちだといえます。日本ではまだ馴染みのある言葉とはいえませんが、「良いことをしながら良い投資をしたい」と考える人は増えていくのではないのでしょうか。



◆社会的課題の解決に向けて - 大和証券の取組み -

2008年3月、大和証券は国内で初めて、子供たちへの予防接種活動を支援する『ワクチン債』を販売しました。「途上国におけるワクチン普及活動に活用する」という明確な資金使途と、「子供たちの命を救う」という社会的意義から、多くのお客さまからご賛同の声を頂きました。以降、排出権取引市場の活性化につながる『ワールドクールボンド』、調達資金をマイクロファイナンス（貧困層向け小規模金融サービス）に活用する『マイクロファイナンス・ボンド』、地球温暖化対策に取組むプロジェクトを支援する『グリーン世銀債』等、社会貢献につながる金融商品を販売しました。

今後も投資に社会的視点を組み込んだインパクト・インベストメント商品の開発・販売に積極的に取組み、投資家の皆様と共に、貧困をはじめとする様々な問題の解決に寄与していきたいと考えております。

大和証券

Daiwa Securities

※大和証券のインパクト・インベストメントに関する特集は、[www.daiwa.jp/study](http://www.daiwa.jp/study) ホームページ「知りたい投資」でご覧いただけます。  
※全日本仏教会ホームページの賛助会員一覧「団体会員 大和証券株式会社サポート部」からもご覧いただけます。

大和証券ホームページ

[www.daiwa.jp](http://www.daiwa.jp)

## 本会の事業を

### ご理解頂くために

既に加盟団体各位には案内状を送付致しておりますが、本会事業説明の為に、加盟団体へ事務総局員を派遣しております。宗会あるいは総会の開催等の際にお時間を頂きたく、何卒宜しくお願い致します。

### 詳細は左記まで

全日本仏教会 総務部

電話

〇三―三四三七―九二七五

FAX

〇三―三四三七―三二六〇

### 平成二十一年度

#### 事業説明既派遣先

曹洞宗宗務庁

東京都仏教連合会

天台宗務庁

長崎県仏教連合会

日蓮宗宗務院

滋賀県仏教会

浄土宗宗務庁

## 事務総局録事

### 二月（一〜二十八日）

- 一日▼加盟団体顧問弁護士連絡会議（東京グランドホテル）
- 二日▼（財）仏教伝道協会取材
- ▼日蓮宗 橋本経理課長・シテムサポート上床氏来局
- ▼中外日報社来局
- 四日▼事務連絡会議
- ▼仏教伝道協会 古澤勝浩事務局長他来局
- ▼栃木県仏教会新年役員会出席（栃木県）〜五日
- 五日▼WFB（世界仏教徒連盟）本部表敬訪問とネパール・ルンビニー園参拝ツアー（タイ・ネパール）〜十一日
- 十二日▼（社）全日本仏教婦人連盟主催「新年修正会」出席（グランドプリンスホテル高輪）
- ▼無料法律相談室
- ▼宗教法人ワーキンググループ会議出席（文部科学省）
- 十五日▼朝日ビジネスソリューション来局
- 十六日▼局内会議
- 十七日▼中外日報社取材の為来局
- 十八日▼国際交流審議会

▼ネパール大使館参事官来局

▼全日本宗教用具協同組合 安田相談役・岩出事務局長来局

二十三日▼全日本葬祭業協同組合連合会との事前懇談会

（全日本葬祭業協同組合連合会事務所）

二十四日▼全日本宗教用具協同組合主催「こんな仏壇あったらいいなコンテスト」審査・表彰式出席（日本橋プラザ）

二十五日▼全日本仏教徒会議栃木大会打合せ（栃木県仏教会事務局）

▼無料法律相談室

### 三月（一〜十日）

一日▼日本宗教連盟幹事会出席（新宗連会館）

三日▼臨済宗妙心寺派に豊原理事長挨拶（京都府）

▼部落解放同盟第六十七回全国大会出席（九段会館）

四日▼事務総局連絡会議（京都府）

▼記者懇談会（京都府）

▼広報委員会「広報文化セミナー」（京都府）

▼西山浄土宗へ挨拶と説明（京都府）

五日▼全葬連「第六回葬祭コーデ

イネーターコンテスト」(アジュール竹柴)

▼全日本仏教徒会議栃木大会実行委員会出席（宇都宮グランドホテル）

▼真宗仏光寺派取材（京都府）

▼本門法華宗取材（大阪府）

八日▼日本宗教連盟「第五回理事会」(第二回参議会)（新宗連会館）

▼日蓮宗第九十七期定期宗会に宗務委員として出席（ホテルパシフィック東京・日蓮宗宗務院）〜九日

▼朝日ビジネスソリューション来局

九日▼第八回同和・人権問題連絡協議会（西山浄土宗務所）

▼エジプト 大ムフティート 豊原理事長が面談（本願寺築地別院）

十日▼第二十八期各審議会答申・委員会報告を理事長に提出（本願寺築地別院）

▼局内会議

▼（財）東京都慰霊協会主催「都内戦災・関東大震災遭難者 春季慰霊大法要」出席（東京都慰霊堂）

▼衆議院議員「平岡秀夫君の議員十周年を励ます会」出席（ホテル・ニューオータ

ニ）

## エジプト大ムフティーが豊原大成理事長と面談

外務省より、日本政府がアリー・ Gum ア・エジプト大ムフティー及びイブラヒーム・ナグム同補佐官を日本に招聘するにあたり、日本の仏教者と面談したいとの依頼があり、3月9日日本願寺築地別院に於いて豊原大成本会理事長と面談がなされた。出席者は Gum ア大ムフティー、ナグム補佐官、アブデルナーセル在京エジプト大使、カドリ在京エジプト大使館書記官、本橋和夫氏（エスコート）、山本大介（外務省）、豊原理事長、本会国際部2名、以上8名。



本堂前で記念撮影を行うアリー・ Gum ア・エジプト大ムフティー（前列右から2人目）と豊原大成理事長（前列左から2人目）

面談の中で Gum ア大ムフティーは、イスラム教徒のごく少数派の者が教えに反する過激的行動を起こしている事を遺憾に思っており、私たちが平和を願っている事を理解して頂きたいと述べ、イスラム圏と仏教のお互いの共通点を見いだして世界平和に向けて協力していきたい、と述べられた。

## 本会「救援基金」ご協力をお願い

本会では、国内外における災害救援や人道的支援に対し、緊急且つ迅速な対応をすべく「救援基金」を常時開設しております。今後も被災状況を注視し、現地の被災者救援活動を支援してまいります。

つきましては、加盟団体・各御寺院・仏教徒の皆様、そして、宗派・宗教を超えて、皆様の暖かい浄財を下記口座までお寄せ頂きますようお願いいたします。

### 記

郵便振替口座番号：00110 - 9 - 704834  
 口座名義：全日本仏教会救援基金  
 お問い合わせ先（財）全日本仏教会事務総局  
 電話 03 - 3437 - 9275 FAX 03 - 3437 - 3260



救援基金寄付者名（1月29日～3月3日）

山梨県仏教会・香川県仏教会・高野山真言宗・法華宗陣門流・株式会社 ダイセイ  
 岡山県仏教会・国際仏教興隆協会・全日本葬祭業協同組合連合会・神奈川県葬祭業協同組合  
 南禅寺・福島県仏教会・埼玉県仏教会・仁和寺・浄土宗平和協会・念法眞教  
 全日本仏教婦人連盟・臨済宗円覚寺派・善光寺・浄土宗西山禅林寺派・顕本法華宗  
 長野県仏教会（合計3,143,301円 順不同・敬称略）